

図52 製塩土器詳細図20

示しておく。52は折返口縁の条痕を施す粗製土器である。内面口縁はナデ調整、体部はミガキ調整である。53は外面にわずかにRL縄文が認められる。内面はミガキ調整である。54は外面にLR縄文が施される。外面は指圧がみられ、部分的に接合痕を残す。内面はケズリ後ナデ調整である。

#### 4.土器集中ブロック出土の製塩土器

第3節で述べたとおり、A区では土器が著しく集中している範囲を土器集中ブロックとした。土器集中ブロックは比較的まとまって廃棄されたと考えられることから、土器ブロックごとに製塩土器の特徴を述べる。拓本による掲載資料で詳細図に掲載した資料については、拓本実測図の各資料番号に詳細図の番号を()書きで付した。

なお、調整は遺存状況が良い部分で確認し、剥離等により、A・B類の判断が明瞭ではないものは分類を行わなかった。

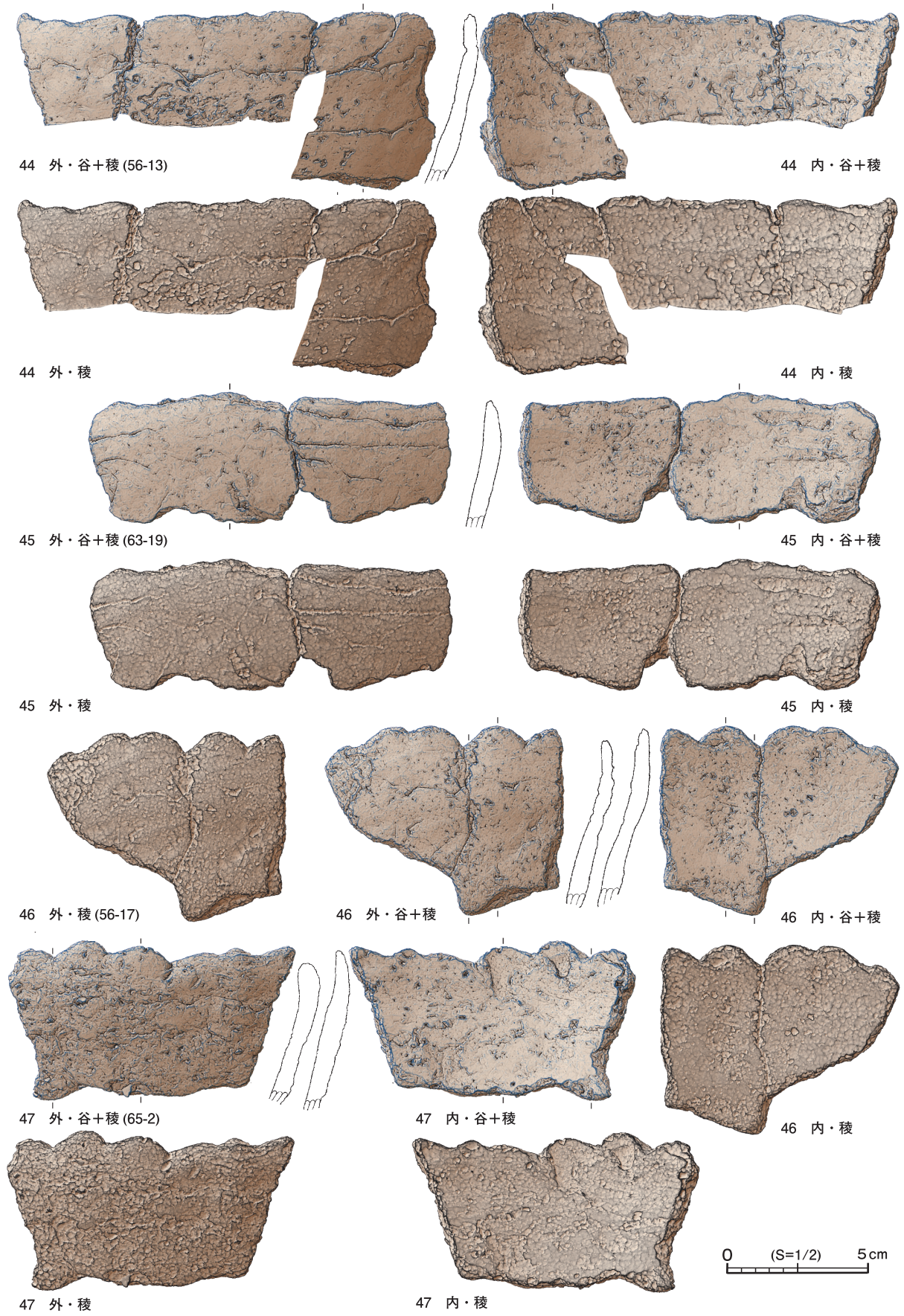


図53 製塩土器詳細図21

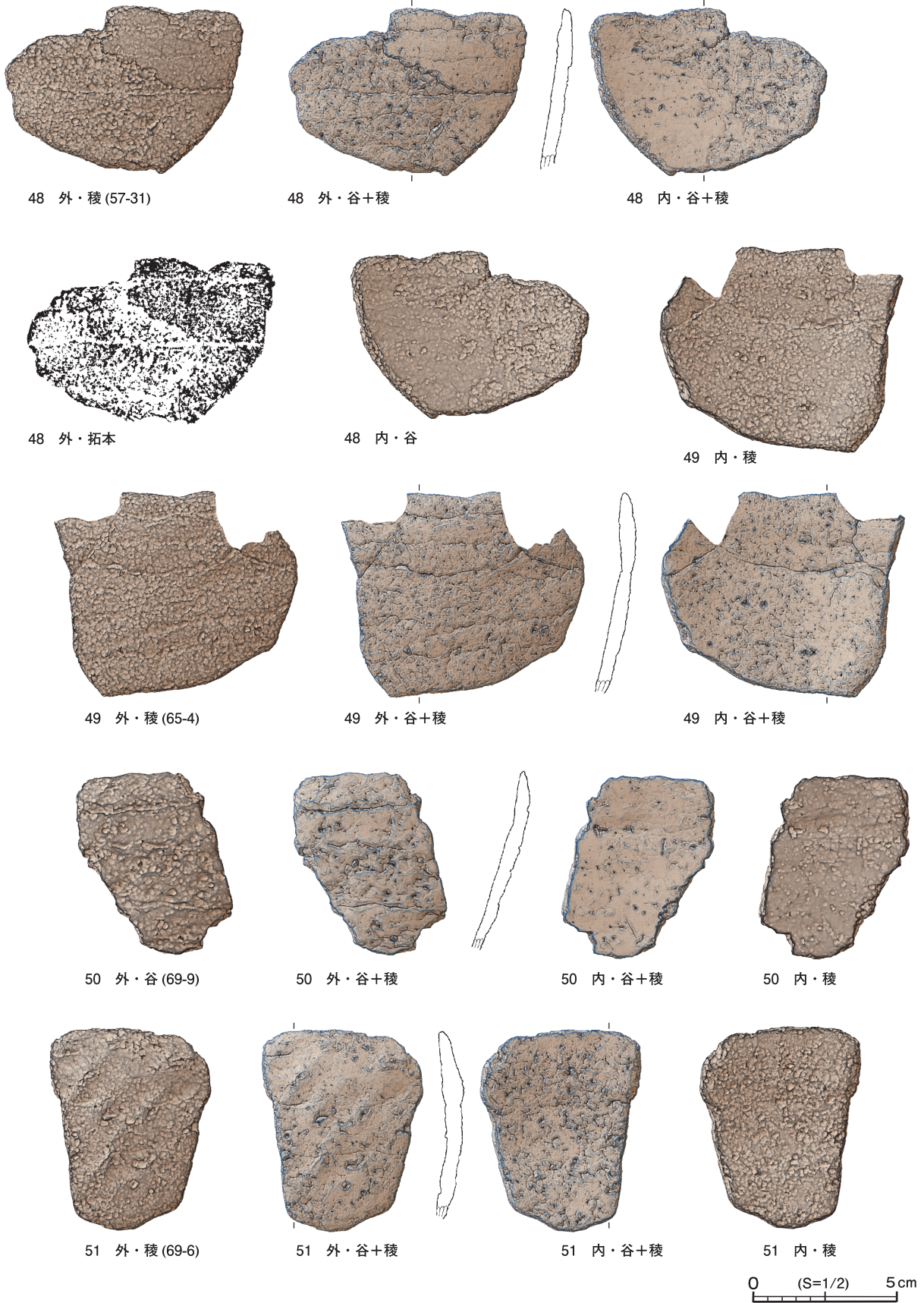


図54 製塩土器詳細図22

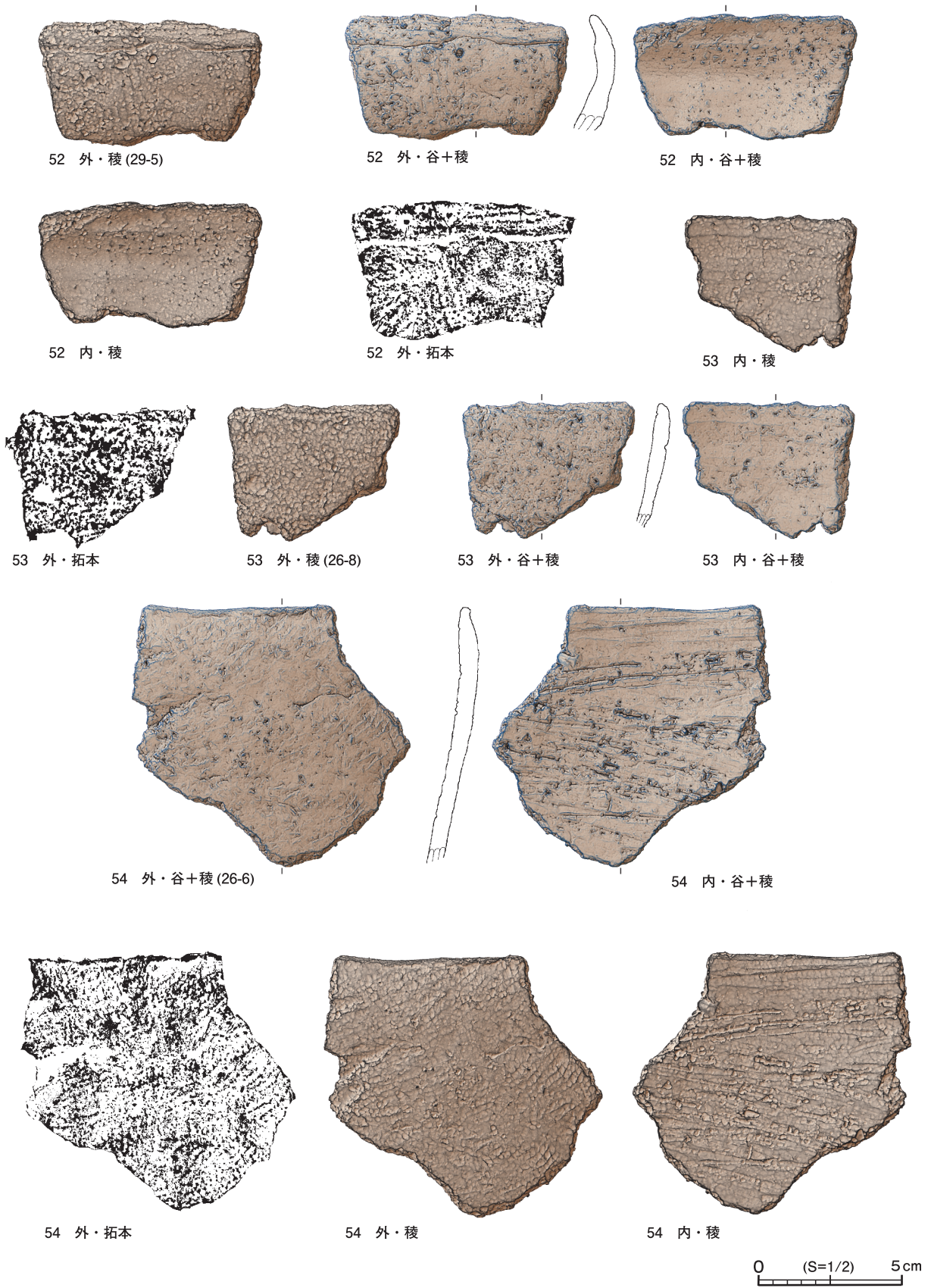


図55 製塩土器詳細図23